おやこであそぼう

～　絵本と、わらべうたの時間　～

2018年 2月21日

☆～　今月の絵本と紙芝居　～☆

くらいくらい（福音館書店）作：はせがわせつこ／絵：やぎゅうげんいちろう

おひざでだっこ（童心社）作：内田麟太郎／絵：長谷川義史

だっこ（小峰書店）作・絵：鈴木まもる

だっこだっこだーいすき（福音館書店）作：上条由美子／絵：100%ORANGE

だっこだっこ（アートダイジェスト）作・絵：古賀ようこ

だっこだっこねえだっこ（ポプラ社）作・絵：長新太

ねぇだっこ（佼成出版社）作：いちかわけいこ／絵：つるたようこ

ねえだっこして（金の星社）作：竹下文子／絵：田中清代

紙芝居　だっこだっこ（教育画劇）作・絵：黒井健

ねんね（アリス館）作・絵：さえぐさひろこ

いっしょにねんね～おやすみえほん～（河出書房）作・絵：たちばなれんじ

いいこねんね（童心社）作：内田麟太郎／絵：長谷川義史

ねんねねんね（女子パウロ会）作：土屋富士夫／絵：千田たかみち

ねんね ねんね（福音館書店）作・絵：ひろのたかこ

ねんねんよー～子どもにうたってあげるこもりうた～（童話館）絵：ましませつこ

ねんねんよう（福音館書店）作：神沢利子／絵：鎌田暢子

もうねんね（童心社）作：松谷みよ子／絵：瀬川康男

☆～　今月のうた　～☆

♪おやゆびねむれ

おやゆびねむれ
さしゆびも
なかゆび　べにゆび　こゆびみな
ねんねし～な　ねんねし～な
ねんねしな

♪ちゅっちゅこっこ

ちゅっちゅこっこ　とまれ
ちゅっちゅこっこ　とまれ
とまらにゃ　とんでけ～

☆～　暦と食べ物　～☆

　豆まき、立春、と、日本の暦は、刻々と春を告げていきますね。立春は二十四節気の一つですが、七十二節気では、短い言葉で気象、動植物などの自然の中の変化を知らせます。例えば立春の中には『東風凍を解く（はるかぜこおりをとく）』『うぐいす鳴く』『魚氷を上る（いずる）』というように、春の訪れが次から次へと告げられて、わくわくします。

　カトリック暦では、この時節は『四旬節』と言って、復活祭に向けての準備期間になるので、祈り、断食、慈善に基づき、どちらかというと静かに過ごします。復活祭は毎年、春分の後の最初の満月が過ぎて、すぐの日曜日と決められており、その４７日前に、四旬節に入ります。
四旬節の間は、お肉や乳製品を断ったり、断食的な日を過ごします。

　そこで、四旬節に入る前にしっかり食べておこうというのが、『しばしの間、お肉に別れを告げる謝肉祭（カーニバル）』なのです。ヴェネツィアの謝肉祭の仮面や仮装は有名で、ヴェネツィアの街は、街の佇まいだけでなく、人も空気も中世に戻ります。カトリック歴の流れるヨーロッパでは、未だに金曜日は肉を断って魚を食べるという習慣を守る地域や人もあるようですが、今ではそれほど厳格ではないようです。

　そんなわけで、今回は美味しいものをずらりと並べることができませんが、ちょっとだけ美味しい甘いお話を！

　ポーランドでは、四旬節の始まる前の木曜日（脂の木曜日というのだそうです）に、『ポンチュキ』という甘いお菓子を、お腹いっぱい食べるそうです。ポンチュキは平たい球形のドーナツで、中にはワイルドローズジャムが入っているそうです。

さて次回ですが、第３水曜日が祝日ですので、第２水曜日に開きます。
ご近所さんにもお知らせ下さいませ。

2018年 3月14日（水）

お問い合わせ
クリスト・ロア修道会
TEL０４２（４６５）８６２０